

## Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	さきちゃんち運営委員会	作成日	3月 6日
事業名	みんながつながる「ワークスペースさきちゃんち」 (ひきこもり当事者の中間的就労の場を拡大する活動)		
協働団体	① 文京区生活福祉課 ② 文京区社会福祉協議会 ③ 民生児童委員 ④ 茗荷谷クラブ (公益社団法人青少年健康センター) ⑤ 家族会 (文京区ひきこもり家族連絡会) ⑥ NPO法人サンカクシャ ⑦ 認定NPO法人PIECES ⑧ JoBridge飯田橋 (GIURI株式会社) ⑨ ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜 ⑩ 生活あんしん拠点 ※ 地域で活躍する専門家 (文京区ひきこもり等支援者連絡会で知り合った方々、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士、看護師、弁護士、社会福祉士など)		
自団体及び協働団体の役割分担	① 文京区生活福祉課：連携、イベント等による活動周知協力 ② 文京区社会福祉協議会：関係団体・機関との仲介、活動支援・助言 ③ 民生児童委員：講座、ひろば・サロン、チャレンジ・プログラムへの参加・協力 ④ 茗荷谷クラブ：専門的助言、講師派遣、当事者の仲介、研修 ⑤ 家族会：ひろば・サロンへの参加、相互に情報提供 ⑥ NPO法人サンカクシャ：取組趣旨への賛同、チャレンジプログラムへの参加・協力 (当事者伴走) ⑦ 認定NPO法人PIECES：専門的助言、講師派遣、優しい間づくり研修開発 ⑧ JoBridge飯田橋 (GIURI株式会社)：取組趣旨への賛同、専門的助言、チャレンジプログラムへの参加・協力 ⑨ ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜：講座 (当事者・ピアサポート) 等開催の協力 ⑩ 生活あんしん拠点：専門的助言、当事者の仲介、講座、ひろば・サロンへの参加・協力 ● さきちゃんち運営委員会：事業企画・運営管理、当事者や関係者の活動のサポート、周知、優しい間づくり		
提案背景・目的	<p>■さきちゃんちの経験 (2015年～2020年)</p> <p>子ども・子育てひろば「さきちゃんち」 (小石川三丁目) は、2015年から2020年までに2万人以上の方が利用した。この活動を通して数多くの子どもや親子との関わりの中で、子どもだけでなく親 (大人) も孤立し、困難や悩みを抱えているケースに出会った。年齢や性別、経済状況などに関係なく、世間の当たり前・常識による同調圧力や不寛容によって、日常生活にちょっとしたまづきや障害が生じ、だれもが社会的に孤立してしまう可能性があることに気がついた。活動を通して、心理的に安全な居場所を通じた社会との接点を持つことの大切さを実感した。</p> <p>2021年度は、不登校やひきこもりなどの社会的孤立の状態を長引かせないために、早い段階で社会との接点を持つことができ、包摂される仕組みを生み出すことを目的に、新しく開設したワークスペースさきちゃんちを活用し、社会的に孤立している方が社会との接点を得られるように、当事者や関係者などとともに居場所を整え、ゆるやかに関わる機会 (ひろば/サロン) を設けた。また、不登校やひきこもりなど社会的孤立に係る実態や課題、一人一人ができることの知識を、地域の方や関係者とともに理解し、共有する勉強会等を開催した。</p> <p>取り組みの結果、当事者やその家族に場を利用していただいたり、理解を深める勉強会等に目標以上の方に参加していただくことができた。</p> <p>■2022年度の取り組みのねらいと結果</p> <p>2022年度の取り組み</p>		

**1. 地域に開かれたひろば／サロンを継続的に開き、当事者や関係者がいつでもアクセスできるようにする**

→各サロン主宰者やスタッフや住民の方の協力で、継続的に、多様な形でワークスペースさきちゃんちを開くことができた。(3つのサロンが増えた)

→茗荷谷クラブ、サンカクシャ、フリースクールの当事者や関係者がアクセスする機会が増えた。

→上記協力団体からの紹介だけでなく、当事者や元当事者の方が自発的にワークスペースさきちゃんちにアクセスするようになってきた。

**2. 社会的孤立に関わる地域の理解者・協力者を増やす**

→勉強会、研修会を実施し延べ100名以上が参加。継続的な参加者も増え(勉強会ML登録者数250人以上)、さきちゃんちの目指すマインドを共有し、協力をお願いできる人が増えた。

**3. 当事者や関係者が活動できる、役割を持てる状況を用意する**

→当事者自ら企画した地域の方向けのイベントを4回開催。定期的な居場所活動の会場提供(14回)。企業のセール、パン販売、ブッカーかけ、データ入力などの中間的就労の機会を提供(延べ13名)(2月以降も継続予定)

**4. 当事者・関係者、地域の理解者・居場所、専門家・専門機関、行政機関等がフラットに相互に連携できる仕組みを構築する**

→関係機関・団体と協力して勉強会を企画運営したり、積極的に研修や連絡会、当事者自身の意見が伺える場などに参加し、対話を重ねる機会が増えることにより、関係性、連携が深まった。

**■新たに得られた気づき**

取り組みを通して、不登校やひきこもりなど社会的孤立の課題に当たって以下の気づきを得た。

【心理的に安全な場が常時開かれていること(受け止めることができる体制)と、それが継続的に運営されることの重要性】

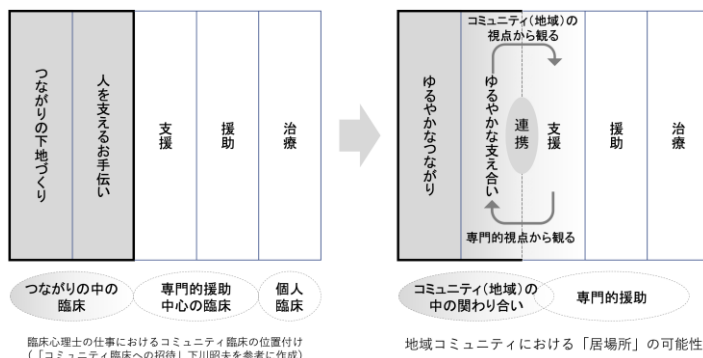
不登校やひきこもりなど社会的孤立の状態にいる方が社会との接点を持つ瞬間はいつ、どこで生じるかは予測が難しい、また、他人との関わり・対話が日常化する中のふとした瞬間に、当事者や保護者、支援者などの関係者の本音やつぶやきに触れることができる。そのような機会を逃さないためにも、心理的に安全な場が常時開かれていることが重要である。

【当事者・関係者、地域の間や地域の理解者・協力者、専門家・専門機関、そして行政機関等とのフラットな関係性と相互連携の重要性】

不登校やひきこもりなど社会的孤立の状態にある方の背景は多様であり、誰もがそのような状況になる可能性があると考えられる。一人が孤立すると家族など身近な人も社会から孤立しやすい状況にある。自己責任論では、孤立するのは当事者の問題であり、当事者自身が努力して変わり、自ら社会に復帰すべきとされるが、このことがさらに多くの人を孤立に追い込む。つまり孤立を引き起こしているのはこの社会自体の課題といえる。

不登校やひきこもりなど社会的孤立の課題に向き合うためには、私たち自らが抱えている課題であることを認識し、地域の理解者・協力者を増やし、専門家・専門機関、そして行政機関等とのフラットな関係性で相互に連携し、当事者・関係者とともに取り組む必要がある。

現在、地域と専門家・専門機関、行政機関等との連携は端緒に立ったばかりである。コミュニティ(地域)の視点、専門的視点から、それぞれの長所・短所を認識し、補い合いつつ課題に向き合う連携体制を整えていくことが重要である。



	<p>■2023年度の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域に開かれたひろば/サロンを継続的に開き、当事者や関係者がいつでもアクセスできるようにする</li> <li>2. 社会的孤立に関わる地域の理解者・協力者を増やす</li> <li>3. 当事者や関係者が活動できる、役割を持てる状況をさらに広げ、継続的に活動できるようにして中間的就労の場を拡大する</li> <li>4. 当事者・関係者、地域の理解者・居場所、専門家・専門機関、行政機関等がフラットに相互に連携できる仕組みを構築する</li> </ol>
事業内容	<p><b>1. ひろば・サロンの運営</b> (地域に開かれたひろば・サロンを開く) 新たにワークスペースさきちゃんちで開かれるサロンが増え、ほぼ毎日場を開くことができ、当事者や関係者がアクセスできる機会が増えた。今後さらに開かれている時間を増やし、日常的な関係性を生み出す、紡ぎ出す機会として「ひろば・サロン」を恒常的に運営する。さらに「ひろば・サロン」の主催者やスタッフとの研修(2-③参照)を重ねることにより、当事者とその人のペースでその場やそこにいる人に慣れ、楽しむことのできる「優しい間」の環境を整える。 (※ひろば・サロンは、文京区社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン事業等の助成金を活用し実施する)</p> <p><b>2023年9月より「さきちゃんち保健室カフェ」</b>(毎月第4日曜日 10:00～12:00、文京区社会福祉協議会の「サロンばらす事業」助成を活用)を正式に開設。(秋元正子氏が新宿区で開設した「暮らしの保健室」を参考に、地域の市民と医療関係者で立ち上げた場。)</p> <p><b>2023年12月より「カスミソウ」</b>(毎月第1土曜日13:30～16:00、カスミソウ文京区の自己運営に協力)を開設。(カスミソウは、学校に行きづらい子どもたちと、その子どもと向き合っている保護者たちがつながれる場づくりを行なっている自助グループ)</p> <p><b>2024年1月より「wakkaさんのfiber cafe」</b>(毎月第4日曜日 14:00～16:00、文京区社会福祉協議会「ふれあいいきいきサロン事業助成」を活用)を開設。(主催者は、もともと地域子育て支援拠点「さきちゃんち petit」の利用者で、編み物などをしながら、地域の方が会話できる場を開きたいという思いで開設した。)</p> <p><b>2. 地域で社会的孤立に関わる課題を聞く・知る・伝える</b> (理解者・協力者を増やす) 当事者に常識や社会規範、就学や就労を押し付けるのではなく、自らの意思で社会との関わりを持てるようにすること。当事者不在の状態であるべき姿を語らないといった姿勢で、当事者と対話することによって、当事者の生きづらさが和らぎ、安心して日々を過ごすことができる「優しい間」を地域で広めていく。 このために、関係者や地域の協力者が、不登校やひきこもりなど地域における社会的孤立の状態にある当事者について知り、孤立している人との関わり方や対話の姿勢を考え、学ぶ機会を設ける。さらに、多世代型の居場所としての全般の活動に取り組む中で、日常的な対話の機会をつくり、社会的孤立の状態にある当事者が安心して過ごすことのできる「優しい間」の醸成について知り、体験できる機会を提供する。</p> <p><b>2-① 視察・情報収集</b></p> <p>【視察】類似の取り組み事例、先進事例の情報収集及び視察(2回程度) 【講座等参加】サポーター養成事業などへの参加</p> <p>【視察】 <b>7月19日:</b> ゆうりんクリニック(豊島区千早)訪問。オープンダイアログを第一線で実践している森川すいめいさんを訪ね、オープンダイアログの勉強会に参加させていただいた。</p> <p>【講座等参加】 <b>8月5日、10月7日、12月16日:</b> 茗荷谷クラブ主催の「8050アウトリーチサポーター・フォローアップ研修」に参加。 <b>6月～2024年3月(8回):</b> 茗荷谷クラブの「ゆったりスペース」にボランティア参加。 <b>2024年2月11日:</b> 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク「WAKUWAKUホーム」報告会&amp;「プリズン・サークル」上映会に参加。</p> <p><b>2-② 社会的孤立に関わる勉強会の開催</b></p> <p>【勉強会】「文京こども・若者を支えるプロジェクト」等において社会的孤立に関する勉強会を開催する。また、「オープンダイアログ」など当事者や関係者を含む「対話」について知る会を開催する。(5回程度) ※感染症の状況によってはオンラインを活用し、実施する。</p>

**【勉強会】**

**6月11日**：「居場所を8年開催して思ったこと ～場づくり、当事者会、ピアサポート、運営など～」割田大悟氏（ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜）を開催。

**7月23日**：「おひとりさま 省エネ 高齢ライフ ～ 8050 サバイバルガイド～」倉光洋平氏、田川薫氏（茗荷谷クラブ）を開催。

**9月24日**：「さきちゃんちに『暮らしの保健室』がやってくる」秋山正子氏（暮らしの保健室(新宿)室長、東京マギーズセンターセンター長）を開催。

**2-③ 中間的就労につながる「優しい間」をつくる研修**

ひろば・サロンのスタッフやさきちゃんちの活動に関わる関係者とともに以下の活動に取り組む。

【研修1】対話をとおして、誰もが安心して過ごすことのできる「優しい間」のつくり方に関する研修会を開催

【研修2】当事者とともに対話を重ねる「オープンダイアログ」を知り、体験する研修会を開催

【研修3】当事者間の支え合いの「ピアサポート」について学び、活動をサポートする勉強会を開催

**【研修】**

①「**地域を育む「優しい間」と市民性**」齋典道氏（認定NPO法人PIECES）

**6月18日**：第1回 市民性とは？

**8月20日**：第2回 「関わり」と「支援」～市民だからこそできる「関わり」～

**10月15日**：第3回 「強み」（ストレングス）と「資源」～人のもつ「強み」

**12月3日**：第4回 振り返り（リフレクション）～「市民性」の理解を深める  
を開催。

**②オープンダイアログ**

**8月24日**：「地域に活かす『オープンダイアログ』あなたも体験しませんか？」森川すいめい氏（ゆうりんクリニック、精神科医）、久保田健司氏（カウンセラー）を開催。

**3. 中間的就労の場「チャレンジ・プログラム」の企画・運営**

（活動できる、役割を持てる状況を用意する）

チャレンジ・プログラムは、昨年度のひろば・サロンでの対話やイベント等に参加したひきこもり当事者本人・関係者の意見・要望等をもとに企画、実施するプログラム。当事者がちょっとだけ覚悟を持って、さきちゃんちのひろば・サロン運営、イベント開催等において役割を見つけ、活動できるチャレンジワークやワークタイムなどの中間的就労の機会をさらに広げて創っていく。関係者や地域の協力者が、対話などをとおして当事者本人に寄り添い、本人の興味や役割、就労等に関わる希望と意思を把握し、ともに伴走・実施・次につなげるなど展開する。

**3-① チャレンジワークの実施**

【**対人活動を伴う活動の内容例**（当事者・関係者の話などより）】

スタッフや地域の方などと直接関わることのできる、中間的就労の機会。

● パン販売やお試し喫茶：コーヒーマーカーマシンなど活用し喫茶の作業や接客体験

● 広報活動：サイトやSNSなどでの情報発信

● その他：小箱ショップの販売を通じた利用者対応／一人暮らしの高齢者などとスマホやiPad等の使い方を考えて、教え合う

**1. パン販売**（ふる里学舎・本郷のパンを仕入れて、販売）

**月ーパン屋さん**：5月25日、6月29日、7月13日、8月31日、9月21日、10月19日、11月5日、12月14日、2024年1月18日、2月22日（計10回）開催。

うち、9回に当事者（計8名）が参加。

**2. チャレンジワーク**（当事者の企画をサポートして開催した取り組み）

**4月27日**：「クロスステッチ体験会」を開催。

**8月22日**：「ゆるカフェ」（茗荷谷クラブとの連携でかき氷の会）を開催。

**9月21日**：「ワークショップDAY」（茗荷谷クラブのメンバーも出展者として参加）を開催。

**2024年1月14日**：「朗読会『to〈1〉』」を開催。

**3. チャリティ♡バザー**

**さきちゃんちチャリティ♡バザー**：6月3～4日、9月16～17日、12月9～10日（計3回）開催。

**3-② ワークタイムの実施**

**【集中して作業する活動の内容例（当事者・関係者の話などより）】**

落ち着いた環境で、当事者それぞれができる作業、得意とする作業を集中して実施できる機会。

- データ化作業：事務的なデータ入力、写真やハガキのデータ化
- 古切手：古切手を買い取ってもらうための作業
- ブッカーかけ：貸出用の本のコーティング作業
- 清掃：ワークスペース、近隣の清掃作業など
- その他：小箱ショップの商品の開発、製作（制作）、ワークスペースの備品管理（書籍、工具、機器等）

やってみたいことに取り組みながら、他者との交流が生まれる機会。

- 布小物づくり：ミシンなどを活用し身近な布小物の製作体験
- 動画製作：スマホ等で撮影した動画を編集し、試写会の開催や身近な映画祭に出品
- 趣味の写真撮影・展示：写真撮影講座等でお気に入りの写真を撮影し、その後作品を加工し、さきちゃんちで展示する
- DIYワークショップ：3Dプリンターやエアブラシ、電気炉などワークスペースにある工具類を使ったワークショップを行う

**1. ワークタイム**（毎月2回、水曜夜（17:00～18:00）時間枠を設定）

**2. ブッカーかけ**（毎月1回、金曜夕（15:00～16:00）時間枠を設定）

参加連絡があり、当事者参加があった回数が33回。参加者は16名。

ワークタイムには、名刺のデータ入力やこども食堂のお手伝い、得意なこと（修理やゴム印作成）をお願いするなど、当事者の取り組みやすい作業も相談しながら取り入れた。

**4. 中間的就労の場を拡大するための関係者の連携構築**

**4-① 中間的就労の場を拡大するための「優しい間」をつくるシンポジウムの開催**

（相互連携の仕組みを構築する）

地域でひきこもり・社会的孤立の課題に向き合うために、中間的就労を含む課題が私たち自らが抱えているものであることを認識し、地域、専門家・専門機関、そして行政機関等とのフラットな関係性で相互に連携し、当事者・関係者とともに取り組む方法を考え、試行する。

- 相互連携での合同勉強会の実施（3回程度）
- 対話（オープンダイアログなど）の試行（読書会の後2回程度）

継続的に取り組める事業を検討する場を設ける

文京区とBチャレの活動の中で事業化できるものがないか検討の場を設ける。（3回程度）

- **相互連携の仕組みを構築する**

**居場所交流**

① **9月24日**：「居場所シンポジウム」を開催。

居場所シンポジウムの開催に合わせて、

- ・「ワークスペースさきちゃんちのなりたち」の改訂版を作成

② **2024年2月23日**：「居場所交流会」を開催。

居場所交流会の開催に合わせて、

- ・「b居場所ネット」のサイトとLINEオープンチャットを立ち上げ
- ・「文京の居場所案内」リーフレットを作成
- ・「居場所マップ作成ワークショップ」を企画・作成
- ・「居場所シミュレーションゲーム」を企画・作成

**地域、専門家・専門機関、行政機関等との相互連携**

① **文京区ひきこもり等支援者連絡会への参加**

- ・8月25日、11月24日

② **企業地域連携推進ネットワーク会議への参加**

- ・7月18日、2月7日

※**企業等との連携**：エフステージ、大洋製菓、明治安田、不二家、アルバ・エデュ、共同印刷、フクダ電子ほか

<p><b>協働団体</b> or <b>利用者の声</b></p>	<p><b>文京区福祉部生活福祉課自立支援担当</b> ひきこもりの方との関わりは点と点を結ぶようなものです。その点と点の間隔を圧縮していけるとよいと思っています。</p> <p>さきちゃんちでは、優しい視線で当事者と関わっていることが、素晴らしいです。さきちゃんちのサロンに来られた当事者が、体調不良になって来られなくなってしまったところで、（さきちゃんちのスタッフに）「辛い」と伝えられたことがとても重要と思います。体調不良となって誰とも繋がらなくなってしまいさらにどんどん落ち込んでしまうところを、「辛い」と伝えられたからこそ、それ以上落ち込まずに復帰して、再び来ることができたのだろうと思います。</p> <p>また、居場所交流会で区内に多くの居場所があることを知り、心強く思いました。繋がりを作ることは簡単ではないですが、さきちゃんちの取り組みにより多くの居場所の関係者が集まる機会ができたことは重要と思います。Bチャレ終了後も継続的に連携できるとよいと思っています。</p> <p><b>公益社団法人 青少年健康センター 茗荷谷クラブ 倉光洋平 氏</b> （さきちゃんちは）足が向けば何気なく身をおける場、でしょうか。色眼鏡で見られず、ふっと受け入れられる。様々な取り組みに誘われて、ふっと溶け込む。なんとなしの関係が生じ、外の世界はそこまで悪くないものだと思っちゃう貴重な街角です。</p> <p><b>特定非営利活動法人 サンカクシャ 加藤大地 氏</b> 受け入れる体制がとても整っているなど感じておりました。それは環境的な側面もそうですし、何よりもスタッフさんやお手伝いに来ていただいている方々がとても温かい方が多く、失敗も受け入れてくださったり、若者の特性を理解していただいているので私達も安心して参加させていただいておりました。</p>
<p><b>協働による効果</b></p>	<p>① 事務的な部分では、会場の確保などがスムーズに行えたことがある。</p> <p>② 事業上は行政機関、専門機関、大学等との関わりから、地域を含むさまざまなつながりが生まれ、地域で当事者や関係者と関わる際に心強いサポートとなった。顔の見える協働・連携の重要性を感じた。</p> <p>文京区ひきこもり等支援者連絡会でのつながりで、跡見学園女子大学や東京大学の先生方ともつながり、子ども・若者の生活体験の場に学生が参加したり、居場所などにおける安心して話をできる場の研究の活動も始まろうとしている。</p> <p>③ 対話によるフラットな関係性の重要性を感じた。</p> <p>少しでも違和感を感じたら、それがなぜなのかを話し合う機会を作ること、お互いの視点に理解が深まり、実際の利用者にとっても少しでも安心な活動に近づいていくように感じた。この経験を今後も活かしたい。</p>
<p><b>成果目標の達成度</b></p>	<p><b>1. ひろば・サロンの運営：</b> [目標：週6日、開館] 土曜日、日曜日にイベントのほか、新たに3つのサロンも開かれるようになった。（カレンダー参照）</p> <p><b>新規サロン（開始順）</b></p> <p>① 第4日曜日 さきちゃんち保健室カフェ（身体や健康のことなどのおしゃべりの場）</p> <p>② 第1土曜日 カスミソウ（不登校、行きしぶりなど当事者同士が気軽に話せる場）</p> <p>③ 第4日曜日 wakkaさんのfiber cafe（織物や編み物など小物を作りながらゆったり話したりできる時間）</p>

	<p><b>2. 地域で社会的孤立に関わる課題を聞く・知る・伝える：</b>                  [目標：参加者100名以上]</p> <p>①「居場所を8年開催して思ったこと」 割田大悟氏                  会場 8名、オンライン 16名、配信 54名、計78名</p> <p>②「おひとりさま 省エネ 高齢ライフ」 倉光洋平氏、田川薫氏                  会場 12名、オンライン 7名、配信 34名、計53名</p> <p>③「さきちゃんちに『暮らしの保健室』がやってくる」 秋山正子氏                  会場 32名、オンライン 24名、計56名</p> <p>④「地域を育む「優しい間」と市民性（4回）」 斎典道氏                  第1回 46名（オンライン含む）、第2回 14名、第3回 16名、                  第4回 19名、延計96名</p> <p>⑤「地域に活かす『オープンダイアログ』あなたも体験しませんか？」 森川すいめい氏、久保田健司氏                  会場 17名、オンライン 8名、計25名</p> <p><b>合計 307名</b></p> <p><b>3. 中間的就労の場「チャレンジ・プログラム」の企画・運営：</b>                  [目標：月2回以上実施。当事者参加各2名以上]</p> <p>①月1パン屋さん：10回中うち、9回に当事者が参加。                  （当事者のユニーク数は8名）</p> <p>②チャレンジワーク：4回開催、当事者6名参加</p> <p>③チャリティ♡バザー：3回開催、当事者参加者数不明（未カウント）</p> <p>④ワークタイム：33回開催、当事者16名参加</p> <p><b>各回1～4名参加</b></p> <p><b>4. 中間的就労の場を拡大するための関係者の連携構築：</b>                  [目標：2回以上実施]</p> <p>①居場所交流会：2回開催、延約80名参加</p> <p>②地域、専門家・専門機関、行政機関等との連絡会：4回以上参加</p>
<p><b>今後の活動予定</b></p>	<p><b>① 対象者を線引きしない活動の展開</b>                  社会的に孤立している、あるいはその可能性がある方は、ひきこもりの方に限らず、子どもから高齢者、性別等に関わりなく幅広くおり、一人ひとりの抱えている課題も様々で多くの場合複合的である。このため対象をひきこもりの方のみと捉えることは難しく、関わる対象者を線引きせずに取り組んでいく必要性を感じている。</p> <p><b>② 地域における社会的孤立に関わる理解を深め、理解者・協力者を増やす</b>                  地域における社会的孤立の状態にある当事者について知り、孤立している人との関わり方や対話の姿勢を考え、学ぶ機会を今後も設けていく。                  また、多世代型の居場所としての全般の活動に取り組む中で、日常的な対話の機会をつくり、社会的孤立の状態にある当事者が安心して過ごすことのできる「優しい間」の醸成について知り、体験できる機会を提供していく。                  さらに他の居場所においても、このような取り組みを広めていき、地域における社会的孤立に対する理解者や協力者を増やしていく。</p> <p><b>③ 安心して過ごすことのできる場、やってみたいことを試せる場を継続的に提供する</b>                  現在あるサロンなどを無理なく継続的に開き、地域の方が安心して過ごせる場を提供していく。そして、この3年間培ってきたチャレンジ・プログラムなどの経験を踏まえ、子どもから高齢者までどの世代の方でも、やってみたいことをともに考え、試すことのできる機会を設けていく。</p> <p><b>④ 地域、専門家・専門機関、行政機関等との連携の継続、展開</b>                  上記の活動に今後も継続的に取り組めるよう、Bチャレなどを通じてこれまで培ってきた地域や専門家・専門機関、行政機関等との連携を今後とも継続・発展させ、新たな知見や経験、取り組みなどの情報を共有できるようにし、課題の多様性に対応できるようにする。                  この際、対話などを通じたフラットな関係性を重視する。</p>

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

【提出先】

E-mail：fumikommu@bunsiyakyu.or.jp 問合せ：03-3812-3044（担当：近藤、田邊）



別紙1：事業スケジュール(報告版)

団体名：さきちゃんち運営委員会

実施内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>1. ひろば・サロンの運営</b>												
(通年で開催)	➔											
<b>2. 地域で社会的孤立に関わる課題を聞く・知る・伝える</b>												
2-① 視察・情報収集				視7/19	研8/5		研10/7		研12/16		勉2/11	
2-② 社会的孤立に関わる勉強会の開催			●6/11	●7/23		●9/24						
2-③ 中間的就労につながる「優しい間」をつくる研修			○6/18		○8/20 ○8/24		○10/15		○12/3			
<b>3. 中間的就労の場「チャレンジ・プログラム」の企画・運営</b>												
3-① チャレンジワークの実施 ・パン販売 ・チャレンジワーク ・チャリティ♡バザー		○5/25	○6/29	○7/13	○8/31	○9/21	○10/19	○11/5	○12/14	○1/18	○2/22	
	○4/27				○8/22	○9/21				○1/14		
			○6/3, 4			○9/16, 17			○12/9, 10			
3-② ワークタイムの実施		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
<b>4. 中間的就労の場を拡大するための関係者の連携構築</b>												
4-① 中間的就労の場を拡大するための「優しい間」をつくるシンポジウムの開催						○9/23					○2/23	
フミコム/関係課との会議	●5/16					●9/4	○10/6	○11/30		○1/9	○2/8	●3/7

\* 列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

## 別紙2: 収支報告書

団体名: さきちゃんち運営委員会

収入 767,248 円

費目	決算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	719,000 円	
団体予算	48,248 円	ワークタイム交通費38000円、材料費(飲食費)2644円、その他7604円
	円	

支出 767,248 円

費目	決算額	積算根拠
1. ひろば・サロンの運営	0 円	(※ふれあいいいききサロン事業等の助成金を活用し実施)
2-① 視察・情報収集	6526 円	交通費4682円、材料費1844円
2-② 社会的孤立に関わる勉強会の開催	57667 円	謝金40168円、材料費13029円、印刷費4470円
2-③ 中間的就労につながる「優しい間」をつくる研修	298488 円	謝金145000円、材料費538円、委託費120000円、印刷費32950円
3-① チャレンジワークの実施	14152 円	謝金5000円、材料費7652円、委託費1500円
3-② ワークタイムの実施	135790 円	謝金1000円、人件費9080円、材料費125710円
4-① 中間的就労の場を拡大するための「優しい間」をつくるシンポジウムの開催 (1)	113278 円	謝金58000円、交通費12000円、材料費9858円、印刷費28050円、委託費5175円、振込手数料195円
4-② 居場所リーフレット作成	100703 円	謝金20000円、印刷費49053円、委託費31650円
5-① ワークタイムの交通費(団体負担)	38000 円	交通費38000円

別紙3：関係者マップ(報告版)

作成日： 月 日

今後の理解者・協力者へ

